

## 令和4年度第2回鹿児島大学病院監査委員会 報告書

当監査委員会は、鹿児島大学病院における医療安全活動に関して、貴院より提出された資料及び各関係部署より説明や意見聴取を行いました。審議の上、本監査報告書を作成しましたのでここに提出いたします。なお新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEB会議による開催となりました。

1. 日 時：令和5年3月7日（火）15時00分～16時02分

2. 会議形式：Web会議

3. 監査委員会委員：

委員長 奥村 耕一郎（琉球大学病院）

委員 玉利 尚大（玉利法律事務所）

委員 三好 綾（NPO法人がんサポートかごしま）

4. 鹿児島大学病院出席者：

坂本病院長、石塚医療安全管理部長（医療安全管理責任者）、西谷医療安全管理部副部長、内門医療安全管理部副部長、大塚医療機器安全管理責任者、吉浦医療放射線安全管理責任者、武田薬剤部長（医薬品安全管理責任者）、宮菌看護部長、弓場臨床技術部長、染矢事務部長、市来医療安全管理部部長補佐、宮腰 GRM、友栗 GRM、肥後 GRM、西澤 GRM、井上副薬剤部長、新駿河副看護部長、西郷診療放射線技師長、佐潟臨床工学技士長、鮎川総務課長、山森医務課長、平山総務課課長代理、原之園医務課課長代理、江頭総務係長、木原医療安全係長、安田医療安全係専門職員、谷山総務係主任、有村総務係主任

5. 監査内容

今回の委員会に先立ち、資料（2022年度医療安全強化項目、令和4年11月医療安全強化月間について、医療安全に資する診療内容のモニタリング、モニターアラームコントロール会議議事録概要、全病棟アラームレポート、緊急搬送コール統計、患者サポート報告、医療安全ラウンド報告書、医療安全管理にかかわる審議部会及び委員会の開催状況、化学療法・免疫抑制療法時のB型肝炎ウイルスの再活性化に関する注意喚起、リスクマネージャーを対象としたチームステップス研修実施状況、安全管理ニュース、リスクマネージャー連絡会議、医療機器安全管理責任者業務報告、医療安全・感染対策医療スタッフマニュアルの暴力・不審者・盗難への対応に関する項目の追加点など）について各委員で確認し、委員会では各委員より事前に提出された質問の回答を含め説明が行われた。

（1）医療安全管理部の業務報告について

1) 医療安全管理部の業務について、以下の説明があった。

- ・0-1 レベルインシデントの報告件数について、全体の60%を目指しているが、前年度は56.6%、本年度は現時点で約55%である。引き続き、医療安全ラウンド等で報告を促していく。
- ・患者誤認数のモニタリングでは、割合を算出し数値をグラフにして推移を見える化した。10月には件

数が多くなったが、注意喚起を行うことで翌月より改善された。

- ・モニターアラームコントロール会議をメール会議で開催した。
- ・死亡報告は電子カルテを用いてインシデントレポートと同様な仕組みで報告、救急外来や死産は、別途、一覧表を作成している。外来死亡は、到着時死亡と外来時急変死亡の両方が含まれる。
- ・重大なインシデントで該当診療科からの報告がなかった事例が発生したため、事態を重く受け止め、緊急問題検討部会で原因究明及び再発防止を検討している。
- ・化学療法・免疫抑制療法時のB型肝炎ウイルスの再活性化に関するフローチャートを作成し、医療安全マニュアルに掲載した。次年度のポケットマニュアルにも反映する予定である。
- ・チーム医療推進を目的として、リスクマネージャーを対象としたチームステップス研修を開催し、延べ112名が参加した。
- ・各部局長・診療科長が把握していないインシデントレポートが提出されるケースがあることから、部局長・診療科長にリスクマネージャーの権限（レポート認証、指導・助言、モニタリング・評価）を付与し、毎月自部署の状況を確認している。

## 2) 医療安全管理部の業務報告に関する意見交換

意見交換を通じて以下の点を確認した。

- ・手術時間モニタリングに関して、リアルタイムで報告の有無をチェックし報告書に記載している。リアルタイムで報告がない場合は、後日報告する様促している。手術時間延長とは手術が予定時間の2倍以上又は4時間以上超過した場合で、延長の主な理由は、癒着が強い場合や予想より困難であった場合である。
- ・医療安全管理にかかわる4つの審議部会・委員会の中で、症例調査委員会及び医療事故調査委員会には、外部委員が参加している。
- ・チームステップス研修の活用に関して、この研修はグループワーク中に課題を与えることで、効果的なコミュニケーションや相手への配慮を学ぶことができる。今後、リスクマネージャー以外にも対象を拡げていきたい。
- ・モニタリング等の作成資料は、医療安全管理委員会及びリスクマネージャー連絡会議で共有、また各部署で資料を回覧するなど、職員が閲覧できる環境にある。閲覧した者はサインをするなど周知を図っている。
- ・手術時間は、週1回の手術部会議で示されたデータを基に抽出している。
- ・B型肝炎ウイルス再活性化の注意喚起がある薬剤使用時のスクリーニング検査に対するモニタリングに関し、注射用の化学療法に関しては、システム上オーダーする時点でB型肝炎スクリーニングの項目にチェックがないとオーダーは完了しない。内服や免疫抑制剤などに関しては薬剤師がチェックしているため、これに関するシステムの構築が今後の課題である。
- ・緊急搬送コール時には、アナウンスがある都度、事務職員が院内の該当箇所へ赴き、患者や付添の方々に協力をお願いしている。
- ・患者サポート報告の診療相談内容「他医療機関の対応について」事例について、当該機関へのフィードバックに関する質問に対し、本事例は本院から院外の医療施設へ紹介した事例であるとの説明があった。

## (2) 医療機器安全管理責任者の業務報告について

### 1) 医療機器安全管理に係る業務について、主に以下の説明があった。

- ・医療機器安全管理責任者として、2023年に日本医療機能評価機構が主催する研修を受講した。
- ・医療機器の安全使用のための院内研修は、①新しい医療機器導入時の研修（作動の原理、基本的操作方法、トラブル時の対応等を説明）、②特定機能病院における定期研修（人工心肺装置・補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置及び閉鎖式保育器等の説明）、③その他の研修に分類され、昨年度は計84回実施した。
- ・実施した研修に関しては、機器情報、開催日時、説明者名等を記載した記録書を保管している。
- ・上記②の特定機能病院における定期研修で説明した医療機器以外についても、年次計画を立てたうえで、定期的に保守点検を行っている。
- ・医療機器安全管理検討委員会及びME機器センター運営委員会は年に4回開催し、定期点検・新規導入機器の研修状況、搬送実績等を報告し共有、同内容はリスクマネージャー連絡会議でも報告している。
- ・シリンジポンプ、輸液ポンプ、逐次型空気圧式マッサージ器は、ME機器センターで管理し、必要時に各部門へ貸し出している。
- ・除細動器は臨床工学技士と各部署の看護師が点検を行っている。
- ・バックバルブマスクは、2019年12月以降ディスポーザブル化に伴い医療器材管理部から各部署へ払い出している。
- ・人工鼻は院内物流を通じて各病棟で保管し、各病棟の看護師が毎日交換している。またME機器センターでも保管しており、回路交換や人工呼吸器患者の搬送時に使用している。

### 2) 医療機器安全管理の業務報告に関する意見交換

意見交換を通じて以下の点を確認した。

- ・災害が起きた場合の医療機器の安全管理体制は機能するののかとの質問に対し、災害時のマニュアルを整備しており、医療機器の優先順位に沿って予備電源を供給する。昨年停電時にはマニュアルに基づき臨床工学技士が参集し、医療機器を設置・点検を実施したとの説明があった。
- ・通常保守点検は3名体制で実施しているが、高度医療機器は外部に委託する場合もある。
- ・除細動器は各部署の看護師により点検が行われている。点検者を対象に年2回の講習会を行っている。
- ・新型コロナウイルス感染予防対応のため、ディスポーザブルのバックバルブマスクはバクテリアフィルターを装着して使用している。人工鼻とバクテリアフィルターの違いなどは、人工呼吸器の研修の際に説明し、職員間で共有している。

## (3) 暴力・ハラスメントを受けた職員へのケアについて

### 1) 暴力・ハラスメントを受けた職員へのケアについて、以下の説明があった。

- ・令和4年度第1回本委員会で要望があった院内で暴力・ハラスメントを受けた職員への相談窓口の周知について、医療スタッフマニュアルに窓口を掲載予定であること、職員の精神的サポート体制として、心理相談や精神保健相談を受ける産業医及び事務担当部署を定期的に周知している。

### 2) 暴力・ハラスメントを受けた職員へのケアに関する意見交換

- ・委員より女性専用の相談窓口に関する質問があり、女性の産業医はいないが、事務担当部署には女性を配置しているとの説明があった。委員より同性でないで相談が躊躇される場合もあるため、引き続き検討して欲しいとの意見があった

## 6. 講評

- ・特に改善を求める事項はなし。
- ・資料及び監査委員会での説明や意見交換を通じて、医療安全に係る対応が適切に実施されていることを確認した。各部局長・診療科長に対しリスクマネージャー権限付与とインシデントレポート確認を依頼する取り組みは、各部署内で医療安全に関する情報の共有、周知を図り医療安全に対する意識を押し進めていく上で有用と思われ評価できる。全リスクマネージャーを対象としたチームステップス研修の実施も評価でき、この研修によりノンテクニカルスキルを習得することはチーム医療の向上に繋がるため、今後も対象者を拡大しつつ継続していくことを期待したい。暴力・ハラスメントを受けた職員へのケアに関しては、女性相談窓口など相談がさらにしやすくなる様に引き続き検討をしていただきたい。
- ・この2年間は新型コロナウイルス感染症流行により Web 会議での監査となった。新型コロナ感染症の流行は新たなインシデント要因を生み出し、また活動の制限が必要になるなど医療安全活動にも影響を与えたが、その状況下において医療安全を確保し、新たな取り組みも行われていた。引き続き医療安全活動を推進し患者の安全を守ることに努めていただきたい。

以上

令和5年3月7日

鹿児島大学病院監査委員会

奥村 耕一郎

玉利 尚大

三好 綾